

## 56年度農村検診センターの検診結果と検討

厚生連滑川病院 一 柳 兵 蔵  
松 井 規 子

昭和56年度（1月～12月）に於ける農村検診センターの検診結果につき、若干の検討と分析を行ったので報告する。対象者は県下全般農村在住者であった。

### 1. 検診人員の年齢性別（第1表）

検診人員総数 2,731名，男 1,252名（45.8%），女 1,479名（54.1%）。僅かに女が多い。

呉東地区 1,535名（男 651名，女 884名），呉西地区 1,045名（男 479名，女 566名），県連その他 151名（男 122名，女29名）。検診者の年齢別は，男40才代35.5%，50才代29.6%，60才代16.6%，30才代13.6%，20才代，70才代は2%台で，40才代，50才代が大部分で64.9%と占めていた。女は同様40才代37.6%最も

地区別受診状況及び年齢性別（第1表）

地区	受診者数	男(年齢)						女(年齢)					
		20才 29才	30才 39才	40才 49才	50才 59才	60才 69才	70才 以上	20才 29才	30才 39才	40才 49才	50才 59才	60才 69才	70才 以上
新川地区	1,037	6	57	159	145	82	13	4	52	219	213	84	3
富山地区	498	6	34	54	61	29	5	4	44	103	122	33	3
高岡・氷見・射水地	432	4	29	59	63	46	5	1	42	66	81	34	2
砺波地区	613	7	25	127	60	46	8	1	29	160	123	27	0
県連その他	151	3	27	43	42	5	2	0	11	9	8	0	1
小計	2,731	26	171	442	371	208	33	10	178	557	547	178	9
百分率		2	13.6	35.3	29.6	16.6	2.6	0.6	12.0	37.6	36.9	12.1	0.6
合計	2,731	1,252						1,479					
百分率		45.8%						54.1%					

地区別受診状況及び判定区分（第2表）

地区	受診者数	性別		コース			異常なし	差支えなし	要観察	要注意	要精密	要治療
		男	女	A	B	C						
新川地区	1,037	462	575	148	37	852	257	9	96	264	223	188
%							24.7	0.8	9.2	25.4	21.5	18.1
富山地区	498	189	309	15	29	454	121	1	51	115	113	97
%							24.1	0.2	10.2	23.0	22.6	19.4
高岡・氷見・射水地	432	206	226	10	8	414	91	1	58	111	92	79
%							21.0	0.2	13.4	25.6	21.2	18.2
砺波地区	613	273	340	27	6	580	159	6	78	107	156	107
%							25.9	0.9	12.7	17.4	25.4	17.4
県連その他	151	122	29	31	0	120	57	1	17	31	26	19
%							37.7	0.6	11.2	20.5	17.2	12.5
合計	2,731	1,252	1,479	231	80	2,420	685	18	300	628	610	490
百分率		45.8	54.1	8.4	2.9	88.6	25.0	0.6	10.9	22.9	22.3	17.9

多く、50才代36.9%、30才代、60才代同率12%、20才、70才代同率で6%であった。40才、50才代は74.5%を占めている。随って検診結果は男女共に中年初老期の健康状態を主として示すものと見做される。

## 2. 総合判定結果 (第2表)

総合判定結果は“異常なし”685名(25%)、  
“差支えなし”18名(0.6%)、  
“要経過観察”300名(10.9%)、  
“要注意”628名(22.9%)、  
“要精密”610名(22.3%)、  
“要治療”490名(17.9%)  
であった。

前回(54.7~55.12)報告と比較するに“異常なし”20.7%より25%に増加、  
“要注意”28.5%より33.9%(“要注意”と“要経過観察”を合計せるもの)に増加し、  
“要治療”は22.1%より17.9%に減少した。

地区別に検討するに“異常なし”では県連  
その他が37.7%で特に高率だが、事務業種が  
主で肉体的労働が少ないのが主因と見られる。  
その他4地区で砺波地区25.9%最も高率で、  
最低率は高岡・氷見・射水地区の21%であった。  
後者の地区は都会工業地帯の要素が比較的大  
である事が考慮されねばならぬ。新川・富山  
地区は中間であった。要治療は県連その他  
12.5%で最も低率であるが、その他4地区で  
は、砺波地区17.4%で最低率、  
前回24.4%より著明減少している。  
最高率は富山地区19.4%で、  
前回19.9%と略大差はない。高岡・氷見・  
射水地区、新川地区は中間18%程度で、  
略同率であるが、何れも前回高岡・氷見・  
射水地区21.9%、新川地区23.0%より減少し  
あり、全般に要治療者減少し、  
異常なしが増加している。

A. B. CコースではCコースが圧倒的に  
選択され、2,420名(88.6%)であった。

## 3. 判定内容分析

### 1) 要注意者分析 (第3表)

疾患系統別に検討するに、循環器30.9%、  
消化器25.4%、脂質代謝肥満症26.6%、  
高脂血症8.6%が主なるものであった。前回

要注意者疾患分類別頻度(第3表)

疾患分類	頻度 例数	性別		百分率
		男	女	
循環器疾患	760	357	403	30.9%
消化器疾患	625	376	249	25.4%
呼吸器疾患	37	25	12	1.5%
泌尿器疾患	49	33	16	2.0%
血液疾患	190	44	146	7.7%
内分泌疾患	7	0	7	0.3%
新陳代謝疾患糖尿病	14	9	5	0.6%
肥満	436	96	340	17.7%
高脂血症	212	92	120	8.6%
運動器疾患	72	33	39	2.9%
婦人科疾患	33	0	33	1.3%
眼底疾患	8	6	2	0.3%
その他	13	8	5	0.5%
合計	2,456	1,079	1,377	

に比し循環器26.6%よりも増加、肥満13.2%より何れも増加であった。随って要注意者で循環器疾患、肥満の増加が目される。但し高脂血症前回12.6%より減少している。消化器は前回と全く同率であった。循環器疾患の内容を分析するに高血圧243名(男9.5%、女8.3%)、心肥大125名(男4.7%、女5.4%)が頻度高く、高血圧は前回8.0%より増加しているが、女心肥大は減少している。

注目すべきは虚血性心疾患疑(陳旧心筋梗塞、狭心症、心電図異常、ST、T波異常)125例で(男4.3%、女4.8%)前回77例(男1.7%、女3.2%)より増加傾向が認められる。大動脈硬化72例(男2.6%、女1.7%)認められた。右脚ブロック45例(男2.5%、女0.8%)、期外収縮(上室性、心室性)57例(男1.2%、女2.7%)、その外房室ブロック、心弁膜症疑、心房細動等が認められた。高血圧、虚血性心疾患の増加が目される。消化器疾患にて胃炎疑221例は精査を必要とせぬもので健康管理上問題はない。

注目すべきは肝疾患でB型肝炎ウイルス保有者51例(1.8%)、男30例(2.3%)、女21例(1.4%)、その中で、肝炎発病者6名(男5

名, 女1名), 発病率11.7%であった。発生地区は散発性に全域に認めた。肝障害 186例(6.8%)男 123例(9.3%), 女63例(4.2%)で男は女の2倍の頻度である。

γGTP高値のみの症例32例(1.2%), 男29例(2.3%), 女3例(0.2%)で格段の差異を認め、アルコール摂取量と密接な関連性あり。肝障害の原因として、男高率なるはアルコールによるもの相当包含しあるものと考えられる。

肥満症 436例(17%), 男96例(7.6%), 女340例(23.0%)。女は男の3倍の頻度である。特に循環器疾患(高血圧, 動脈硬化, 心疾患), 糖尿病の誘因として、又停戦後日本人食生活の西欧化により、増加しある疾患として注目されねばならぬ。

高脂血症 211例(7.7%), 男92例(7.3%), 女118例(7.9%), 男女発生率に大差はない。

貧血190例(7.0%), 男44例(3.5%), 女146例(9.8%), 女は男の3倍弱で、原因として過重労働と栄養の不均衡が主因と考えられるが、胃疾患, 婦人科疾患, 痔疾等を原因とするものもある。

## 2) 要精密検査者の分析(第4表)

消化器疾患 212例(57.7%)が圧倒的に多数で、泌尿器疾患67例(11.0%), 糖尿病42例(8.3%), 眼底変化37例(7.7%), 内分泌疾患50例(6.2%)等であった。内容は消化器疾患では胃新生物疑20例(0.7%), 男7例女13例。胃外腫瘍疑2例, 胃粘膜下腫瘍疑4例, 胃炎疑201例(7.4%), 胃潰瘍及び癒痕疑98例(3.5%), 男70例(5.5%), 女28例(1.9%), 胃ポリープ疑73例(2.7%), 十二指腸潰瘍及び癒痕疑32例(1.1%), 泌尿器疾患では尿潜血陽性62例(2.3%), 男17例, 女45例が主なるもので膀胱炎, 腎盂腎炎に因するもの, 稀に腎腫瘍疑のもの1例あったが、大部分は病的意義不明で経過観察であった。糖尿病疑72例(2.6%)(男30例, 女42例), 眼底変化64例(2.3%), 眼底血管高血圧変化,

要精密者疾患分類別頻度(第4表)

疾患分類	頻度 例数	性別		百分率
		男	女	
循環器疾患	14	7	7	1.6%
消化器疾患	499	287	212	57.1%
呼吸器疾患	5	4	1	0.6%
泌尿器疾患	67	29	38	11.0%
血液疾患	24	6	18	2.8%
内分泌疾患	54	4	50	6.2%
新陳代謝疾患糖尿病	72	30	42	8.3%
運動器疾患	9	4	5	1.0%
婦人科疾患	6	0	6	0.7%
眼底疾患	67	30	37	7.7%
その他	19	11	8	2.1%
合計	865	412	453	

要医療者疾患分類別頻度(第5表)

疾患分類	頻度 例数	性別		百分率
		男	女	
循環器疾患	284	143	141	44.7%
消化器疾患	60	34	26	9.4%
呼吸器疾患	6	5	1	0.9%
泌尿器疾患	39	25	14	6.1%
血液疾患	92	13	79	14.5%
内分泌疾患	5	0	5	0.8%
新陳代謝疾患糖尿病	27	15	12	4.3%
高脂血症	1	1	0	0.16%
運動器疾患	30	9	21	4.7%
婦人科疾患	8	0	8	1.3%
眼底疾患	62	30	32	9.8%
その他	21	12	9	3.3%
合計	635	287	348	

網脈絡膜出血, 網膜静脈血栓等であった。内分泌疾患では甲状腺腫54例(2.0%), 男4例, 女50例がみられた。

## 3) 要医療者の分析(第5表)

循環器疾患44.7%が最も頻度高く、次いで血液疾患92例(14.5%), 消化器疾患60例(9.4%), 眼底変化62例(9.8%)が主なるものであった。

循環器疾患では高血圧249例(9.1%), 男9.5%, 女8.7%が主要なもので、その他狭心症6例(男2例, 女4例)。心房細動6例(男5例, 女1例)。陳旧心筋梗塞, 左脚ブ

ロック、心弁膜症、WPW症候群が少数みられた。随って高血圧の塩分制限、動脈硬化性心疾患に対し脂肪性食品の制限等に留意すべき事と治療の継続励行が望ましい。

貧血88例(3.2%)、(男0.7%、女5.2%)で、女に高率なのは従来通りであった。

眼底変化62例、男2.3%、女2.1%で、眼底血管高血圧及び動脈硬化性変化、網脈絡

膜出血等である。

消化器疾患では肝炎35例(1.3%)。男 1.7%、女 0.8%で、男は女の2倍の頻度に認められ、肝障害12例(0.4%)、B型ビールス性肝炎1例が要治療であった。糖尿病27例(1.0%)。男1.1%、女0.8%に認めた。高血圧、貧血の外に肝疾患、糖尿病の増加傾向が注目される。